

2年 道徳学習指導案

2年1組41名 指導者 中村 恵

1 総合主題名 たすけ合って生きる

2 総合主題について

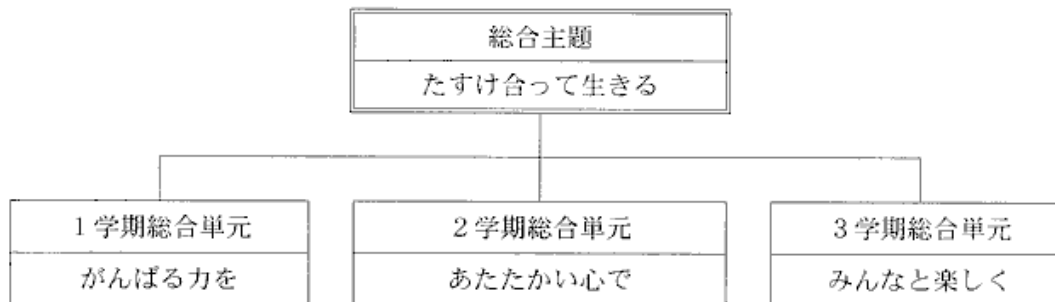
私たちは、常に社会の中で他者とのかかわりを持ち、周囲の人々に支えられながら生きている。社会という集団の中でよりよく生きていくためには、よい人間関係を築くことが何より大切である。

児童も2年生になると、1年生のときに比べ友達関係が広がり、自分たちで役割を分担して生活しようとするようになってくる。また、友達のことを思いやることや相手の立場を考えることが少しずつできるようになってくる。こうした時期にこそ、集団の中でよりよい友達関係を築くことや互いに助け合うことの大切さに気付かせたいと考える。

本学級の児童は、素直でおとなしく、けんかなどの大きなトラブルも少ない。しかし、中には、いやなことを言って友達の心を傷つけたり、自分勝手な行動をしたりして周りの友達に迷惑をかけてしまう者もいる。また、自分のことはきちんとできるが、身近な友達が困っていても積極的にかかわろうとしない者もいる。総じて自分や友達の問題をともに考えて解決していこうとする意欲が希薄のように感じられる。友達や周りの人に親切にしたり、助け合ったりすることが大切であることは分かっているが、実際にその場になると行動に移せない場面が少なくない。

そこで、様々な体験を通して、友達を思いやることの大切さ、友達と力を合わせてできたときの喜びなどを感じ取らせることで、よりよい人間関係を築き、明るく楽しい生活を送ろうとすることができる児童を育てたいと心から思う。総合主題「たすけ合って生きる」はそんな思いから設定した。

総合主題「たすけ合って生きる」の単元構成は、次の図の通りである。



3 2 学期総合単元名 あたたかい心で

4 総合単元について

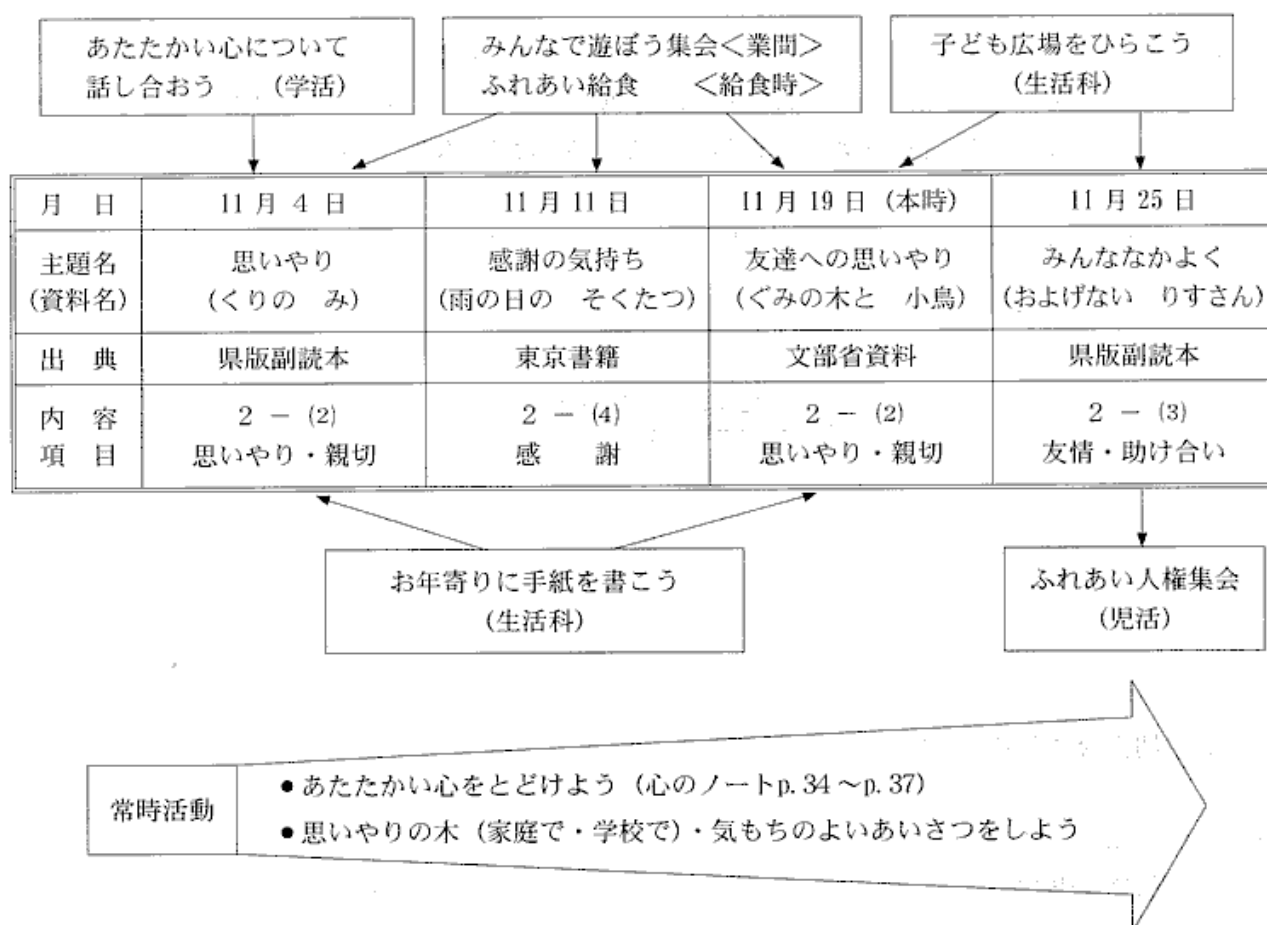
(1) 単元設定の理由

4月当初、「みんなでたすけ合おう」の学級目標の下、お互いに支え合う温かい仲間づくりに取り組んでいきたいと考えた。友達と助け合うためには、まず自分のことがきちんとできることが必要と考え、

1学期は「がんばる力を」という総合単元を設定し、何事も自分の力でやり遂げようとする態度を養いたいと支援を続けてきた。4月に実施した生活科の「学校探検」の活動では、1年生の児童に優しくかわり、仲よく探検の学習を進めることができた。1年生の児童のお礼の言葉や、担任からの賞賛を受けたこともあり、親切にすると気持ちがよいということ、自分たちもやればできるということを理解できた者もいた。また、5月に行われた異年齢集団による「大手海岸清掃集会」では、同じ班の友達と一生懸命ゴミを集めながら、自分も班の一員としてがんばるという気持ちをもつことができた者も多かった。6月には、保護者の方々にも付き添いのお手伝いをいただき、生活科の「里浦町を探検しよう」の活動を実施した。計画の途中、自分のことばかりを考える者がいてトラブルが起きるグループもあったが、十分話し合うように支援し、なんとかどのグループも無事探検の学習を終えることができた。訪問先では施設を見学させていただいたり、事前にグループで考えておいた質問をしたりして、楽しく活動することができた。こうした活動を通して、人を思いやり、助け合うことの大切さに気付くことができるようになった者もいた。けれども、全体的に感謝される喜びや温かい心を感じる力が十分育っているとはいえない。

そこで、2学期は、育ちつつある児童の心情を大切にしながら、道徳の時間の学習において道徳的価値の自覚を深めるとともに、様々な体験を生かして、人の心を感じる力を育て、助け合っていこうとする態度を養っていきたい。

(2) 単元の構想



5 本時の学習

(1) 主 題 名 友達への思いやり

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

2 - (2)	身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。
---------	-----------------------------

親切とは、相手の身になって考え、助け合い喜び合うことであると考え。この親切という行為には、他人の苦しみや悲しみをその人の身になってどれだけ思いやれるかという心情が深くかかわっている。人間は、社会の中で多くの人々とかかわり合って、自分自身もまたよりよく生きていこうとする。ここでは、親切にした方もされた方も互いに温かい気持ちになり、人間関係が和やかになるということに気付かせたい。

〈児童の実態について〉

児童は、気の合う仲間同士では親切にできるが、自分とかかわりの少ない人々に対しては、親切にすることができないことが多い。2学期になり、クラスにも慣れ、自分自身のことばかりでなく、他者に対しても目を向けられつつあるこの時期の児童に、困っている人や弱い立場の人を思いやり、温かい心で接し、親切にすることの大切さに気付かせたい。

〈資料について〉 資料名「ぐみの木と 小鳥」小学校道徳の指導資料とその利用5（文部省資料）

いつも来ていたりすが来なくなったことを心配し、ぐみの木が小鳥にりすのことを相談する。小鳥が、ぐみの実を持ってりすの所へ行ってみると、りすが病気で寝ていた。小鳥は次の日も来ることをりすに約束する。次の日は、あらしだったが、小鳥はぐみの実をりすの所に届けた。この資料の中では、りすのことを心配するぐみの木の思いやりの気持ち、あらしの中をぐみの実を届ける小鳥の優しさに共感させるとともに、心からその親切な行為に感謝するりすの気持ちを役割演技を通してとらえさせたい。そして、この3者の立場から親切について考え、思いやりのある親切な行為が、よりよい友達関係を築くためにはとても大切なことであるということに気付かせたい。

〈授業の工夫について〉

① 資料提示の工夫

資料の新鮮さをそこなわないために事前に読ませることを避け、授業の中で絵話の形で授業者自身が読むことにした。児童の心情を揺さぶるために、資料を前半部分と後半部分に分けて与えることにした。

② 役割演技の工夫

ぐみの木や他の動物たちの気持ちを素直に表現させるための工夫として役割演技を取り入れる。役割演技を取り入れることで、児童がより自発的・意欲的に気持ちを表現できると考えたからである。

③ 生活を振り返る時間

児童が日頃実践しているやさしい言動や思いやりの木のカードを紹介することで、自分や友達によさに気付かせ、実践意欲を高めたい。

(3) ね ら い

周りにいる人たちに対して温かい心で接し、進んで親切にしようとする心情を育て、実践への意欲をもたせる。

(4) 展 開

学 習 活 動	児 童 の 思 い	指 導 上 の 留 意 点
1 子ども広場のビデオを視聴し、親切にしたり、されたりした経験を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none">●ゲームをするとき、1年生の人に優しく教えることができた。	<ul style="list-style-type: none">●親切にしたり、されたりしたときのことを想起させ、ねらいとする価値にかかわる意識をもたせる。
2 資料の絵話を聞き、話し合う。 (1) ぐみの木がりすのことを小鳥に話したときの気持ち (2) 目に涙を浮かべているりすの様子を見たときの小鳥の気持ち (3) あらしの中をりすの家に向かって飛んでいくときの小鳥の気持ち (4) あらしの中を小鳥が届けてくれたぐみの実を見たときのりすの気持ち	<ul style="list-style-type: none">●このごろ来ないので心配だ。●いったい、どうしたんだろう。●お腹がすいて困っているのではないか。●役に立てたので、うれしい。●元気になるまで毎日来よう。●ぼくが届けないと、りすさんは困ってしまう。●届けるとりすさんも喜んでくれるだろう。●あらしだから行きたくないなあ。●こんなあらしの中を来てくれてうれしい。●小鳥さん、ぐみの木さん、ありがとう。	<ul style="list-style-type: none">●登場人物の気持ちを考えながら聞くようにする。●いつも来ていたりすの様子を気遣うぐみの木の気持ちについて考えることができるようにする。●りすの言葉も考えて、小鳥の気持ちに共感させる。●親切についての多様な価値観を引き出すようにする。●小鳥に託して、様々な価値観を語らせることで、自分はその中のどの気持ちが一番強かったかを確認する。●親切にされたときのうれしさをりすに託して語らせることにより、親切な行為が意義あるものであることに気付かせる。
3 自分たちの生活を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">●友達が困っているとき、親切にすることができた。	<ul style="list-style-type: none">●自分の生活を振り返ることで、親切にする場合は、多くあることに気付かせる。
4 教師の話聞く。		<ul style="list-style-type: none">●実践への意欲が高められるようにする。

(5) 評価の観点

- りすを気遣うぐみの木や小鳥の気持ちに共感することができたか。
- ぐみの木や小鳥の言動から、相手を思いやることの大切さを理解することができたか。
- 友達や周りの人に親切にしていこうとする意欲が高まったか。